

研究タイトル：日本古代大学の研究



氏名：	二星 潤 / NIBOSHI Jun	E-mail：	j_niboshi@nagano-nct.ac.jp
職名：	講師	学位：	博士(歴史学)
所属学会・協会：	大阪歴史学会, 続日本紀研究会		
キーワード：	日本古代史, 教育史		
技術相談 提供可能技術：			

研究内容：日本古代の大学教育と官人登用の変遷の歴史的解明による日本教育史の再構築

日本古代の大学は、日本古代における唯一の公的中央教育機関で、かつ、官人養成機関でもある。日本古代の大学と政治的・社会的状況との関連や官人登用との関係については、現時点においても、検討が十分になされているとは言い難い。日本古代の大学については、従来の研究では官人の特権である蔭位制を重視するあまりに、大学の官人登用コースとしての位置づけを低く評価してきたが、これまでの自身の研究によって、大学の官人養成機関としての有意性を明らかにすることができた。

本研究の着想は、教育における格差問題に端を発している。現代においても、親の学歴や収入が子供の教育における格差に繋がっていることが問題視されているが、このような現代社会が抱えている教育問題は、日本の古代社会にも存在した。日本古代の大学は、設置当初から五位以上子孫という貴族子弟を入学対象としており、教育の機会そのものに格差が設けられていた。また、大学生内部にも教育格差が存在した。その格差の一つの結果として、格差の上位に位置する者に関する問題が大学別曹であり、下位に位置する者に関する問題が官司請負と言うことができる。しかし、大学別曹や官司請負が社会に与えた影響は未だ十分明らかになっておらず、現在、教育格差という同様の問題に直面している私達が把握しておくべき問題であると考えます。また、これらの格差を生じさせた前提として、官人の登用制度を正確に理解しておく必要がある。

古代国家において、将来を担う人材を育成した教育の位置づけを考えるために、(1)大学と官人登用制度の関係、(2)古代の有力氏族が設立した大学別曹と大学との関係、(3)博士職の世襲と官司請負の関連の3点に着目して研究を進めている。大学は貴族子弟に入学者を限定した機関である。また、大学別曹は有力氏族によって設立されたものであり、博士職の世襲や官司請負は特定の氏族によってなされた。これらのことを考えると、特に教育と氏族の関係に着目することによって、古代国家における教育の位置づけを明確にできると考える。

本研究の目的は次の2点である。(1)日本古代の大学教育の変遷と古代国家における官人登用の変化の関連を解明することによって、大学修了者の官人登用の政治的・社会的状況を明らかにする。そして、(2)将来を担う人材を育成するという教育の本質を踏まえ、特に教育と氏族の関係に着目することによって、古代国家における教育や学問の位置づけを明確にして、日本古代教育史を再構築する。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	